

自治体職員等の地域再生力向上のための研修会等の企画  
地域学部地域政策学科 藤井正 澤田廉路 小野達也 筒井一伸  
農学部 長澤良太

## 1. 実施趣旨・概要

この研修会等の企画は地域再生プロジェクトを構成するプロジェクトの3つの事業目的のうち「実践力のある人材育成」と「地域再生ネットワークの構築」の2つの目的達成を主に目指すものである。

「実践力のある人材育成」については、大学院生、学部生を対象にした「地域協働教育プログラム」の開発実施、社会人を対象とした課題解決力向上のための研修会などの実施を視野においている。

平成25年度は、自治体、地域づくり団体の社会人と事例研究の対象にした地域に関わっている大学生との合同研修を実施した。具体的には鳥取県内の自治体と地域のまちづくり団体、企業、NPOと鳥取大学・大学生の各メンバーが一緒になって地域課題を事例として解決するために必要な知識やスキルを実践的に学ぶ研修プログラムの企画である。この企画の実施にあたっては、鳥取県人材開発センターと連携して、平成25年度鳥取大学地域再生プロジェクト・鳥取県連携講座として、身近な実践を通じて学ぶ「地域再生ファシリテーション」講座と銘打って、の第1回の研修会（鼎談・見学・ワークショップ）を、大学・自治体・地域活動団体等の参加を得て、2014年2月14日に倉吉市人権文化センターと周辺の明倫地区で実施した。参加者は、47名（行政職員21名、地域で活動する住民14名、学生12名）であった。

その他、地域連携・協力研究機関の研修や地域再生のために取り組む他大学との連携強化のための研修会参加、聞き取り視察等を行なった。また、地域再生の調査研究に資する活動を空間的に記録するためのGISの基盤を整備した。具体的にはArc GIS Server Enterprise Standardをはじめとする基盤整備を行い、StoryMapのサービスが提供できるようにした。

## 2. 地域再生向上のための研修会

### (1) 「地域再生ファシリテーション」講座のポイント

- ・鳥取大学がこれまでの地域における学生参加の実践活動で得られた成果や知見、ネットワーク、人的資源等を活用し、これからの地域の再生を担う実践力ある人材の育成に取り組む。
- ・今回の講座では、地域課題解決力に求められるスキルのうち、特に地域等との協働を進める上で自治体職員や地域の人材に求められる「ファシリテーション」を取り上げ、特に倉吉における学生参加の活動という具体的な事例・現場を通じて、まちづくりへの「学生の参加」の効果や課題を学ぶとともにネットワークの構築をはかる。
- ・地域の方との連携を図りたい自治体職員や、自治体との協働を進めたい地域の関係者の方の参加を得て、学生とともに地域再生を図るきっかけづくりと地域の課題解決力の向上を図る手法等を学ぶ。



## (2) 講座の内容

日時：2014年2月14日（金）13:00～17:30（交流会～19:00）

場所：倉吉市人権文化センター及び周辺明倫地区（交流会：鍛冶町1丁目自治公民館）

開講あいさつ：鳥取大学 田中久隆研究担当理事

全体司会：鳥取県人材開発センター 吉井美和子

ファシリテーター：鳥取大学地域学部 特命准教授 澤田廉路

### ①鼎談：地域再生のファシリテーション

～倉吉市の淀屋の活動を通じた鳥取大学とNPOの取組実践より～  
鳥取大学地域学部副学部長・教授 藤井 正

学生の淀屋サミットへの参加から学生の関わり方について

NPO法人明倫NEXT100理事長 川部 洋

淀屋プロジェクトからわいわい淀屋、明倫NEXT100・明倫AIR  
への展開について

倉吉文化財協会会長 眞田廣幸

伝統的建造物群地区と牧田家の修復、明倫の伝建地区の拡大について

### ②現地視察：明倫地区の取組実践現場を探访



明倫NEXTの拠点ゲストハウス



眞田会長さんの現地説明



淀屋（旧牧田家）内部の説明

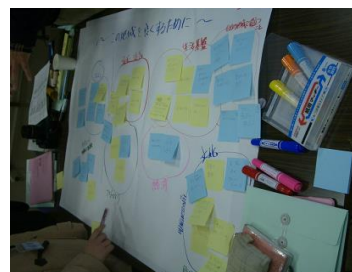
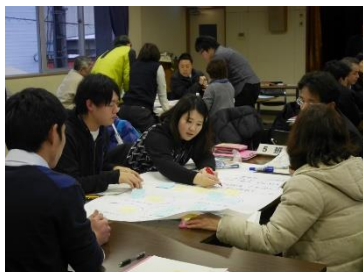


### ③現地視察後の各班ワークショップ

ワークショップのテーマ：イ、地域を良くするには？

ロ、自治体・住民・学生がうまく連携するには？

2つのテーマを鼎談、明倫地区見学の実践を踏まえ、7班に分かれて議論し、世代間交流の大切さ、地域資源活用等の意見を取りまとめた。



### (3) 参加者の評価・意見（アンケート結果から）

#### ①アンケート結果による全体評価

回答を得た41名中、非常に良かった5名、良かった25名で、計30名(73%)、普通7名(17%)、あまり良くなかった4名(10%)、良くなかった0名の結果で、評価は高かったが、あまりよくなかった理由は、ワークショップの発表時間が十分取れなかった等スケジュール運営面についてであった。

#### ②参加者の主な意見、感想

- ・自分の地域を見直す目（気持）をもてるようになったと思う。（民間等）
- ・明倫地区での鳥取大学の取り組みが良く分かった。大学生はそのもの視点で、ばんばん意見を言ってもらおうとよりよい会になると思う。（市町村職員）
- ・話の内容が明倫地区についてに限られているように感じた。内容自体は興味深く聞かせてもらったが、自分の町のこととかけ離れすぎている部分もあった。（市町村職員）
- ・全体的に駆け足感。多様な主体が参加しているので意見交換が一番有意義なのでは。（県職員）
- ・普段は同じ年代の同じ学生と言う立場の人としか話し合いをしていなかったが、様々な人との話の中でいつもと違う価値観が生まれた。（大学生）

### 3. 協力研究機関、他大学等との連携強化

①平成26年2月9日 10:00～18:00、

会場：東京都台東区秋葉原1番1号 秋葉原ビジネスセンター

主催：経済産業省 共催：文部科学省

内容：「教育的効果の高いインターンシップ普及推進シンポジウム」への参加

②平成26年3月11日 13:00～17:00、

会場：東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル イイノホール

主催：高知大学 国際・地域連携センター

内容：地（知）の拠点整備事業シンポジウム

文部科学省の施策説明の他、NPO法人ETIC 代表理事 宮城治男氏による基調講演「地（知）の拠点整備事業」が拓く、地域と大学の新しい可能性—人材育成」分科会「学生と対象にした課題解決学習や地域が求める人材輩出のための教育」に参加

③高知大学「学生と対象にした課題解決学習」聞き取りの概要

日時：2014年3月24日 15:30～18:00

場所：高知大学総合教育センター

高知大学総合教育センター視察内容

「学内カリキュラムにインターンシップをどう盛り込んでいるか」

高知大学総合教育センターリエゾンオフィス室長 今城逸雄 氏

○高知大学の社会協働教育プログラムの系譜について

- ・2週間でのインターンシップ（企業に半年以上は受けてもらえなかった、学生の自己負担も半年は無理） 地元（高知）と東京、横浜で8月の夏休みと、3月の春休みに実施
- ・今城氏は特に地元企業、地元NPO等に派遣している。
- ・インターンシップで自分の問題としてとの気づきがある。
- ・学外の魅力的な方々との出会いから「働く」「生きる」を考える機会・企業、社会のリアルタイムの声を反映した学生支援をし、心の滋養の場ともなっている。

○インターンシップのあり方に関する意見交換会（主な意見の要約）

- ・日常性の高い業務の中でかわす対話の中で学生も企業側の社員も変わる
- ・仲間に入る入り口としてのマナーの必要性→きちっとしたプログラムの必要性
- ・学生が企業、NPOインターンシップの経験→積極的な活動が増える



④金沢大学、大阪市立大学、島根県立大学等の地域連携関係の担当の先生方が、鳥取大学に訪れ、意見交換の機会も持った。

#### 4. まとめ

- ・平成25年度は、自治体、地域づくり団体の社会人と事例研究の対象にした地域に関わっている大学生との合同研修を試行的に開催し、自治体職員、地域の活動団体等と大学生が一同に介して学びあい、ネットワークを築く交流の場が持てたなど、一定の成果があったといえる。
- ・全国的に大学と地域との連携が叫ばれているが、必ずしも連携がスムーズに図られて実施されているとはいえない大学が多い。
- ・このような現状の中で、鳥取大学が地域とのスムーズな連携、WIN-WINの関係を構築していくことがより望まれる。
- ・なお、GISについての取組は農学部 長澤良太教授を中心に、地域学部 筒井一伸准教授らが参加して活動を空間的に記録するための基盤を整備した。具体的にはArc GIS Server Enterprise Standardをはじめとする基盤整備を行い、StoryMapのサービスが提供できるようにした。